



第37回六甲クイーンズオープン

7月2・3日/神戸六甲ボウル

大逆転でデビュー2連勝

17歳の新人・中島瑞葵が止まらない!



2020/21 JPBA 女子レギュラーツアーの下半期開幕戦『第37回六甲クイーンズオープン』は7月2、3の両日、神戸六甲ボウルにプロ85名・アマ10名の計95名が参加して行われ(無観客開催)、トップシードでTV決勝進出を果たした17歳2カ月の今年度最年少新人・中島瑞葵(53期・小嶺シティボウル)が2週前の新人戦に続いて優勝。堂々のデビュー2連勝を飾った。(主催:株式会社ザンモール六甲)

▲最後の投球を終えた中島は涙目でガッツポーズ。直後に所属センターの先輩・宇山侑花(48期)から祝福の花束を贈呈され、笑顔が弾けた

断し、見事9フレをファウンデーションメイク。対する小池は9本スペアで、逆転勝利の可能性が微かに膨らんだ。

10フレ1投目、先投げの中島が右レーンで初めてストライクを決め、小池は⑦ピンを残す9本カウント。2投目もストライクとした中島を見てさらに重圧がかかったか、何と小池は再度のカバーミス! 3投目を待たずして勝敗が決するという予想外の結末に、会場にいた誰もが一瞬言葉を失った。

中島は6月の新人戦に続くデビュー2連勝。思えばその新人戦Vも、10フレでの逆転勝利だった。

「初めてのレギュラートーナメントで、新人戦とは違った緊張感のなかで投げていました。まさかここまでこれる(優勝で



▲勝負どころの7フレ⑩スプリットオープンが響き、小池に競り負けて4位の本間。上位常連のシードプロだが、18年宮崎プロアマオープン以来の2勝目は近いようである

きる)とは思っていなかったの、本当にうれしい。4フレでイーギーミスをしたときは一瞬焦りましたが、すぐに落ち着くことができたのでよかったです。最後はストライクを出さないといけない(勝てない)場面だったので、『自分ならできる』と言い聞かせて投げました。プロテストからずっと頑張ってきたので、きょうは自分で自分をほめてあげたいです(笑)」

ちなみに、17歳2カ月のレギュラーツアー優勝はJPBAプロの最年少記録。この勢いはまだまだ止まりそうにない。(写真提供:JPBA)



レギュラートーナメントでの初Vを目前に2ミスで自滅の小池。3投目「決定戦時の勝利インタビューでは『つべん』優勝が見えてきて緊張している」と正直な気持ちを吐露していたが...

4フレで珍しく⑩ピンをカバーミスし、5フレから3連発の小池に3マークのリードを許してしまう。

中島は10フレに残した右レーンの攻略に苦しみ、8フレまでストライクはゼロ。形勢は圧倒的に不利だったが、2017新人戦以来のVが近づいてにわか緊張したのか、今度は小池が8フレで⑩ピンをカバーミス。これが大逆転ドラマのプロログだった。

差は1マーク詰まったものの、中島はストライク連発でさらに相手のミス待ちという状況。中島はボールチェンジを決



▲新人戦4位からひとつ順位を上げて3位フィニッシュのキム。初進出のRRでは8名中トップのアベレージ(230.75)をマークし、勢いは一番だったのだが...



▲ベストアマは総合17位の石田万音選手(神戸六甲ボウル)。ちなみに今大会8位入賞の中谷は、石田選手が4歳でボウリングを始めたころの“最初の先生”だ

予選10Gは95名中49名、準決勝5Gでは32名中23名が200超のアベレージをマークするというハイスコアの戦いとなった今大会は、大方の予想を覆す波乱の展開となった。

前年覇者の坂本かや(49期)が58位でまさかの予選落ちを喫すれば、同準Vの三冠女王・姫路麗(33期)は30位で準決勝敗退。例年上位をにぎわすサウスポー勢も苦戦を強いられ、

35位の桑藤美樹(45期)を最高位に出場15選手全員が予選落ちする一方で、出場優先順154位ながら主催者推薦で出場機会を得たベテランの中谷優子(28期)が、決勝ラウンドロビン(RR)進出の8名に名を連ねる大健闘を果たした(結果は8位)。

そんななか、中島は予選を2288(228.80Avg)でトップ通過。準決勝では1023(同204.60)とスコアダウンし、1118(同223.60)を打った小池沙紀(49期)に首位の座を譲ったが、RRを6勝2敗(8G1748=同218.50)でクリアして再浮上。トップシードで堂々のTV決勝進出を決めた。

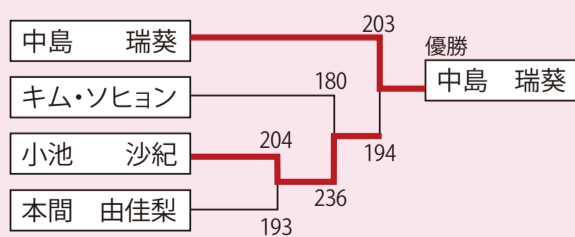
優勝決定戦の相手は、4位決定戦で本間由佳梨(46期)、3位決定戦でキム・ソヒョン(52期)を連破して勝ち上がってきた3位進出の小池。スコアも204→236と尻上がりで完全にコンディションをつかんだ感があり、中島には厳しい戦いになると思われた。

案のじょう、先にミスを犯したのは中島だった。右レーンの



▲新人戦のときと同様に終盤での勝負強さを発揮してデビュー2連勝。思い切ったボールチェンジも功を奏した(優勝ボール・ABSハニーバジャー・エクストリーム/ギア・トリプルエス)

●TV決勝ステップラダー



●優勝決定戦

中島 瑞葵	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	20	40	59	68	88	107	124	144	174	203
小池 沙紀	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	20	40	59	79	109	138	157	166	185	194